

在宅医療連携協議会の結果1

資料2-1

令和2年度の地域課題の中で、令和3年度に在宅医療連携協議会で優先とした課題

	重要とし優先して検討した地域課題		会議における検討内容	結果
1	通いの場	歩いて行ける通いの場、運動教室が少ない	健康づくりリーダーなど地域の人材や理学療法士等社会資源調査、活用の検討。より専門的な通いの場となる。理学療法士等の派遣の検討 通いの場(サロン)の情報発信の検討。サロンの状況を調べる。 おれんじスペースにて、何かできることはないか検討。	サロンの情報をHPやレインボウネットを活用しケアマネジャーに情報提供。サロン継続の支援を行う。 おれんじスペースの情報提供、認知症サポーター養成講座の受講を啓発。
2	買い物	・買い物ボラ、御用聞き、宅配スーパーがない、オンライン買い物、買い物代行支援がない。 ・担い手不足	高齢者自身が、スマートフォンから情報を得ることは難しいため、買い物に関する情報をレインボウネットに掲載するなど、支援者に情報提供することが必要。	サロンなどの通いの場の情報を含めレインボウネットに支援者向けに情報提供する。
3	フレイル	外出を控える傾向があり、フレイルになっている可能性がある。	後期高齢者健診票にフレイルチェックの質問を加えてはどうか検討。問い4・5に異常があれば歯科を進める等、医師会へ働きかける。	後期高齢者健診票について検討課題。 歯科情報については医師会に働きかけを行った。

	重要とした地域課題		方向性	
4	精神科に関すること	・精神面のフォローができる相談施設がない。 ・複合的疾患を抱えており医療機関の複数受診が必要な場合が困る。	協議会では難しい課題のため、医師会にあげていく。	
5	訪問サービス	人員不足、市民主体サービスが少ない、育成機会がない。	事業所自身が啓蒙。 訪問連絡会に進捗聞く。	
6	認知症	認知症がBPSDへの対応に苦慮する。	地域包括支援センター、済衆館認知症疾患医療センターなどと、家族への周知及び、地域全体の意識向上を図る。	
7	移動手段	買い物手段、通院手段、各種バスのルート	きたバスのダイヤ改正により今よりは便利になる。 高齢福祉課から随時情報提供する。	
		移送サービスの拡大	チョイソコ(豊明市の取り組み)など民間資源を高齢福祉課で情報を調べる。	
8	専門職の連携連携		専門性の高い情報を電子@連絡帳の広域連携を利用して共有、発信すること、定期的な情報提供は難しい。 プロジェクトにて専門職同士の意見交換の場として活用していくことは可能。	